

「一方通行」「追い越し禁止」「車両通行止め」――信号器材(川崎市)は道路交通に欠かせない規制標識などを製造・販売する。「日本橋 10km」といった一般道の案内や施設への方角を知らせる



歩行者向け誘導サイン、さらには横断歩道などの標識に使う塗料まで幅広く取り扱っている。規制標識は直径六十センチの薄い円盤が大半だが、同社の製品はふちを丸めた「カール加工」にし、

落下した場合の人のケガや路面損傷を防ぐよう配慮している。安全性や見やすさを重視し、他社との違いを出してきた。川崎の本社工場から神奈川県や東京都内向け輸送・設置工事が迅速

にできる点も強みだ。道路標識のシェアは関東圏の八四%を道路部門、一六%を鉄道部門が占める。設立当初は鉄道信号の保安関連が主体だったが、自動車の普及とともに標識や路面標示用塗料に軸足を移した。

は「市場に近い場所に工場があり、コスト的にも有利」と話す。本社はデザイン室と

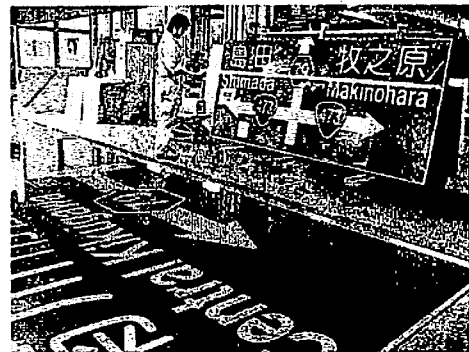
の期比一三%増えた。全体の八四%を道路部門、一六%を鉄道部門が占める。設立当初は鉄道信号の保安関連が主体だったが、自動車の普及とともに標識や路面標示用塗料に軸足を移した。

利幅は厚くない。売上高に占める製品原価の割合も約八五%と高く、採算は厳しい状況だ。売上高の二%以上に掲げるが、金属や樹脂の使用量が多いだけに原材料価格の高騰

あるためヒートアイランド現象の緩和にも貢献するという。遊歩道や公園、遊園地の路面向けに提供している。

安全性・見やすさ重視

環境にも配慮 提案型めざす



案内標識によっては重量が100kgを超える

工場をLAN(構内情報通信網)で直結。端末に投入したデザインを、鉄板に張るシートに即座に反映できるシステムを完備している。



遠藤芳郎社長

二〇〇八年四月初の売上高は百二十一億円と前

ただ顧客は自治体などが多く、競争入札の場合、

標識の文字の大きさや外国語表記まで提案できる企業が目標。遠藤社長は「売上高の一・五二%は開発投資に充てたい」考えで、熟練技術者を「マイスター」として

《会社概要》

▽本社	川崎市中原区市ノ坪160
▽設立	1947年10月
▽事業内容	道路標識、路面標示、レールボンドなどの製造・販売・工事
▽売上高	121億4600万円 (2008年4月期・単独)
▽経常利益	3億700万円(同)
▽従業員数	約300人

は響きぞつた。当面は利益率を念頭に、既存事業の見直しと受注の選別が課題になる。

昨年十月に設立六十周年を迎えた。遠藤社長は同社が「新しい時代の節目にある」と強調する。例えば標識の支柱も景観に合った色の選択が必要になる。規制標識の盤面

組む姿勢を前面に打ち出す。